

マーケットの動き（2021年1月19日～1月22日）

米国国債市場は、前週末比でほぼ横ばいとなりました。

米国政治および経済・財政政策などの材料を消化しきったため、レンジ内での推移となりました。

ドイツ国債は、ECB（欧州中央銀行）理事会では市場予想通り政策は据え置かれたものの、見通しについて変更はなく、どちらかといえばタカ派的と解釈され、金利が上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2021年1月）

長期金利は、米国は上昇圧力が残り、欧州はレンジ内での動き

米国：政府による追加経済対策は9,000億ドル規模にとどまり、財源についてもFRBや中小企業支援プログラムの未使用金が充当されることから、国債増発に伴い金利上昇するとの見方は後退しています。しかし、FRBは12月のFOMCで追加の金融緩和に踏み込まなかったことや、新型コロナウイルスのワクチン普及によって景気が持ち直すとの見方もあり、長期金利の上昇圧力は残るとみています。

欧州（ドイツ）：新型コロナウイルスを巡り、欧州地域における感染再拡大の一方、ワクチンの効果も見込まれることから、狭いレンジでもみ合う展開を予想しています。

	1月22日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	1.09	▲0.01	0.17	0.49	▲0.68
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	493.30	0.03%	▲0.59%	▲0.90%	3.73%

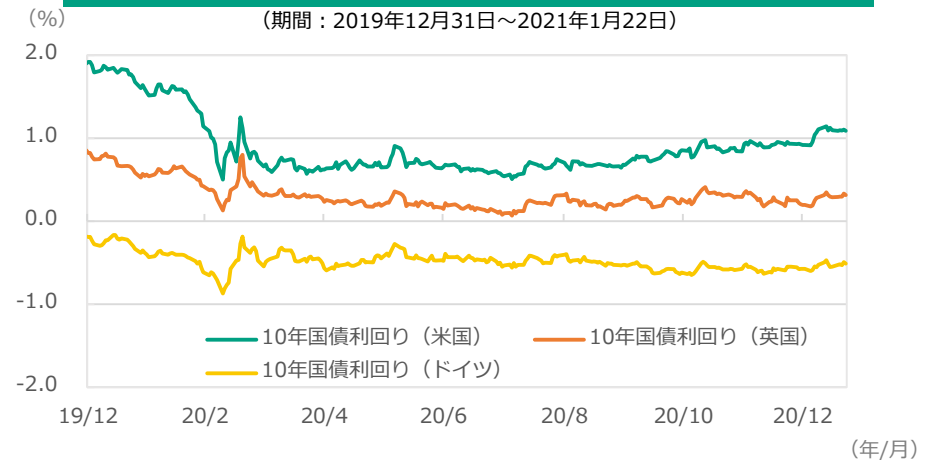
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202101_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2019年12月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成